

2016年度 ボランティアセンター 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	学生生活支援の理念は、高い社会性・共同参画意識を有する、自立した社会人としての基礎力を有する人材を育成するために、正課外教育の観点から、課外活動を含めて充実したキャンパスライフを学生が送れるように、学生生活全般の充実とそのためのキャンパス環境の整備を図ることにある。この理念の下で、明治大学ボランティアセンター（以下、VC）は、正課外教育の観点から、「学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養し、もって社会に有用な人材を育成することを目的としている。」（明治大学ボランティアセンター規程第1条）					
(2) 付属機関等の理念・目的が、教職員及び学生に周知され社会に公表しているか						
a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】	①毎年度発行している『明治大学ボランティアセンター活動報告書』の冒頭ページに、VCの理念・目的を掲載し、教職員および学内外の関係機関へ配布・周知している。 ②毎年度発行している『明治大学ボランティアセンターパンフレット』においても、VC設立の目的を掲載し、入学した全学生へ配付・周知している。 ③ホームページにおいて、VC設立の目的を掲載し、社会一般にも広く周知・公表している。	VCの理念・目的を具現化するものとして、VC独自のロゴマークを作成した。ロゴマークは学生から募集し、投票に参加してもらうことでVCの周知にもつながった。		今後、VCのロゴマークを積極的に活用することにより、VCの周知を推し進めていく。		
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	①VC運営委員会におけるVCの理念・目的等の検証作業を、9月および3月に開催するVC運営委員会で行い、これまでの業務検証に加えて、VCの業務と活動実践の適切性についても検証している。 ②VC運営委員会の下に常設されている各キャンパスVCのボランティア活動支援分科会においても、年に2回以上、定期的な検証作業を実施している。	定期的に検証を行い、VCの理念・目的を再認識することで、地域・行政との連携や学生からの自発的な活動に対する支援など、企画や活動の数も増え、各キャンパスVCの業務がより活発なものとなっている。	検証を実施した結果、VCの目的を達成するにあたっての問題点が以下のとおり挙げられた。 ①生田VCの業務量増加による人員不足。 ②駿河台や中野のVCには、学生からの相談や学生同士の意見交換などの独自のスペースが無いため、活動が制限されている。	今後も定期的な検証を行い、ボランティア活動をしている学生に、更に活動を広げるためのアドバイスを継続して実施していく。	①業務量が増加している生田VCに人員1名の追加が必要である。 ②駿河台および中野に専門知識を有するボランティアコーディネーターを配属する。また、全キャンパス独自のスペースを確保する。	現在、兼務で職員がVC業務を行っているが、今後、各キャンパスVCを統括し、企画・運営する専任職員を配置する。また、全キャンパス独自のスペースを確保し、複数の人員を配置する。

2016年度 ボランティアセンター 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか					
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	明治大学ボランティアセンター（以下VC）では規程を整備している。その中で、センター長は学生部長が務め、学長の下でセンター業務を総括し、センターを代表するなどの権限を規定している。 また、審議機関としての運営委員会とその構成委員、同委員会の下に各キャンパスボランティア活動支援分科会を置くことが規定され、これに基づいて適切に運営されている。 VCに関する事務は、学生支援部学生支援事務室が行う。センター担当（他業務と兼務）の各キャンパス学生支援事務室所属の専任職員4名（4キャンパス）と、ボランティア・コーディネーター2名（和泉・生田）と専らセンター業務に従事する嘱託職員3名（駿河台及び和泉・中野キャンパス各1名）を置いている。 和泉と生田キャンパスにボランティア・コーディネーターが1名ずつ配置されたことにより、和泉・生田VCにおいて独自の企画立案や外部団体とのネットワーク形成が一段と進んだ他、他キャンパスと交流する機会も増えており、ボランティア・コーディネーターの存在の重要性が証明されている。				
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか					
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	各キャンパスVCにおいて企画されたイベント等については、各キャンパスのVC活動支援分科会で、審議または報告された上で実施している。それらについて、年2回、9月及び3月に開催されるVC運営委員会において、VCの組織の適切性を定期的に検証している。 東京6大学ボランティアセンター連絡協議会に参加し、他大学の現状の情報収集や交流を実施した。その他、全国ボランティアコーディネーター研究会への参加や、熊本地震震災ボランティアミーティングに参加し、本学の取り組みに活かしている。				

2016年度 ボランティアセンター 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか						
a ●社会連携・社会貢献に関する方針を定めているか。 ●教職員・学生が方針を共有しているか。	ボランティアセンターにおける社会連携・社会貢献に関する方針として明確に定めたものは無いが、学長方針において「学生参加型プログラムの充実」の一つとして「各キャンパスVCの独自の展開、和泉・駿河台キャンパスVCの連携を一層活発化させるとともに、新たな展開を推進するための地域連携、学生組織の充実や、東日本大震災の被災地へのボランティア活動をさらに継続・進化させる」としている。これを受け、学生部の長期・中期計画および学生生活支援の理念の下、「VCの活動を通じた学生の社会参画を支援する」という方針を立てており、VCの充実と定着化を推進していくことで、学生の社会連携・社会貢献につながっている。 各キャンパスVCにおいて企画されたイベント等については、各キャンパスのVC活動支援分科会で、審議または報告された上で実施しており、それらについて、年2回、9月及び3月に開催されるVC運営委員会にて、VCの組織の適切性を定期的に検証することで、方針等を共有することができている。 社会連携・社会貢献につながる活動をより一層推進するためにVCの活動の更なる周知を図っている。	VCの社会連携・社会貢献につながる活動をより周知するために、以下の取り組みを行った。 ①「明治大学ボランティアセンター活動報告書」の内容を一新し、各キャンパス活動内容のフォーマットを統一したことでより見易い報告書が完成した。 ②和泉VCではtwitterによる情報発信を開始した。		①各キャンパスのVC運営委員が、キャンパスで行われている学生たちの主体的な活動を見守り支援したり、活動に積極的に参加または同行したり、各キャンパス活動支援分科会にて企画内容を精査することで、より良い企画を実現し、活動参加者の増加を目指す。 ②和泉以外のVCにおいても、学生にとって馴染みの深いtwitter等の媒体の活用を検討する。		
(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか						
a ●方針に沿って、社会連携・社会貢献を推進しているか。	各キャンパスで特色のある活動を展開し、これ自体が自ずと本学の社会連携・社会貢献を推進している。各キャンパスVCの活動は次の通りである。 【駿河台VC】 1 神保町応援隊の要請による「神田すずらんまつり」「神保町ブックフェスティバル」への活動参加及びキャップ回収や募金活動 2 猿樂町町内会の要請による花の植え替え 3 ちよだボランティアセンターの要請による「西神田ファミリー夏祭り」「福祉まつり」等の運営活動 4 エコキャップの啓蒙イベント「エコキャップ週間」を開催し、キャップ回収や展示活動、募金活動を実施 5 サークル「MIFO」による、難民の郷土料理メニューを学食に導入し、売上の一部を難民支援団体へ寄付する活動を実施 6 千代田区と連携して学生・教職員への防災意識を高めるための「災害救援ボランティア講座」を年2回開催 7 首都直下地震にあった場合の対応について考える「防災講座&ワークショップ」を年2回開催 8 総務課からの要請で「駿河台キャンパス防火・防災訓練」の実施にVCと「災害救援班」の学生が協力					

2016年度 ボランティアセンター 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
	<p>【和泉VC】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 サークル「くればす」による学食にオリジナルメニューを導入し、1食あたり20円を開発途上国の子どもたちの給食として寄付する活動「Table ForTwo」を実施 2 サークル「MIFO」による「全商品リサイクル活動」及び「Meal for Regugees」で、難民に送るための古着回収や学食に難民の郷土料理メニューを導入等の啓発活動を実施 3 ボランティアサークル合同によるスワンベーカーリーのパン販売活動や宣伝（障がい者支援） 4 「くればす」や学生有志による不用品のバザーを学内で開催し、開発途上国での学校建設費用として寄付する活動を実施 5 学生有志による視覚障がいのある方も楽しめる「バリアフリー映画祭」を企画・開催 6 近隣の日本女子体育大学付属二階堂高校で、ボランティアサークルに所属している学生が「ボランティア入門講座」活動の体験を発表 6 杉並区地域包括センターとの連携による、高齢者施設での「お茶会」に企画・運営で参加 7 杉並区福祉会館からの依頼による「野外活動バスハイク」や「杉並区福祉会館まつり」に企画・運営で参加 8 杉並区や世田谷区の子ども食堂で子どもと交流や勉強をする学生が参加 9 杉並区の家文庫の親子向けのクリスマス会にて、一部の企画を学生が実施。 10 杉並区内の公園等で開催される子ども向け竹とんぼ教室に学生が講師・サポート役として参加 					
	<p>【生田VC】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近隣児童館、川崎市科学館との連携による、小学生向け科学実験教室プログラムの企画・開催 2 福島県相馬郡飯館村の松川第一仮設住宅に暮らす方々と本学学生との交流を目的とした「までい」プログラムの企画・実施。仮設住宅の暮らしを学生が体験するプログラム、飯館村の方々と共に飯館村を訪問するツアープログラム、帰村可能時期をひかえ仮設住宅で同窓会を開くプログラムを学生主体で企画・実施 3 川崎市内約300の市民活動団体との連携による、本学研究室学生ほか学生有志による「天まで届け！かわさき色輪っかつなぎ2016 in 明治大学」プロジェクトの企画・実施 4 狛江市市民活動支援センターとの連携による、サークル「LINKs」の、地域の小中学生対象清掃ボランティア活動の企画・実施 5 サークル「天文部」による、地域の子どもたちと保護者との交流を図る星空観望会プロジェクトの企画・実施 6 サークル「LINKs」とサークル「MIFO」の共催による、難民支援や環境貢献のための衣料品回収の企画・実施 7 サークル「MIFO」による、難民の故郷の味を再現したメニューを学食に導入し、1食あたり20円を難民支援団体へ寄付する活動の実施 8 熊本県出身の本学学生有志による、熊本地震義援金募金活動の実施 9 サークル「しんちーむ」による、福島県相馬郡新地町の小学生を対象とするハイキングや特別授業の企画・実施 10 サークル「地底研究部」ほか学生有志による、岩手台風水害への支援活動および本学での募金活動の実施 11 学生有志による、東日本大震災で被災した小中学生の学習支援を行う「南相馬フリースペース」活動の企画・参加 					

2016年度 ボランティアセンター 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
	<p>【中野VC】</p> <p>1 「外国人おもてなし語学ボランティア講座」を東京都と共同開催し来る東京五輪に向けた国際ボランティアの養成講座として機能した</p> <p>2 近隣の大学や警察署・消防署・区役所・社会福祉協議会等の行政と連携し「allなかの防災ボランティア体験デー」を実施</p> <p>3 サークル「MIF0」による「全商品リサイクル活動」で、難民に送るための古着回収や展示等の啓発活動を実施</p> <p>4 サークル「赤十字奉仕団・クローバー」による学内での献血活動</p>					

2016年度 ボランティアセンター 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	明治大学ボランティアセンター（以下、VC）では、9月及び3月の年2回VC運営委員会と、これと合わせた形で開催される各キャンパスのVC活動支援分科会において、「明治大学ボランティアセンター規程」第1条の目的に即して活動しているかの自己点検・評価を、定期的実施している。なお、その公表に関しては、各年度における全学的な自己点検・評価として公表している。	VCの目的を達成するために、各キャンパスのボランティア活動支援も様々なプログラムを立ち上げ、魅力あるイベントを実施している。		学生や教員が企画した活動が増え、VCへの来室者増へつながっている。 また、キャンパス相互間の企画を実施し、学生間の連携と今後の活動へのつながりができたことで、更なる企画を実施する。		
(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか						
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ● 文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】	内部質保証の方針と手続が明確になっていないが、VC運営委員会による自己点検・評価の実施が、事実上これに対応している。年2回9月と3月に開催し、これに合わせてVCの活動実践と業務がVCの理念や目的に適合しているかを定期的に検証している。実施された自己点検・評価の結果を、次年度の「教育・研究に関する年度計画書及びこれに関する長期・中期計画書」に反映することで、改革・改善につなげている。					
(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか						
a ●PDCAサイクルを回すための、Check（点検・評価）およびAction（改善）の具体的内容・工夫 <参考：以下の事項に関して、関連するものについて記述する> ①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など	毎年、年2回のVC運営委員会において、各キャンパスVCの次年度活動計画・予算案の審議、自己点検・評価、および当年度の活動報告を行うことが定着している。 また、2016年度については、2015年度の自己点検・評価から見出された改善点に対する進捗状況について、VC運営委員会にて確認を行った。 これらを基に、2016年度の自己点検・評価および2018年度「教育・研究に関する年度計画書及びこれに関する長期・中期計画書」に反映させ、改革・改善につながるよう取り組んでいる。	VC運営委員会での審議・報告、自己点検・評価が定着したことで、問題点が明確となり、改善につなげやすくなっている。		今後も継続して、年度計画および長期・中期計画の策定や予算案の策定の際に、改善につなげるようサイクルとして機能させる。		